

教育長	部長	課長	係長	係

会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和6年9月4日	開催場所	知立市役所第2・3会議室 10時～11時30分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、近藤博子、栗林昌弘、三宅隆弘、松崎保義、藤澤幸兄、丹羽真由美、野畑知美、永井淳子、川上陽子、David Hunt、岡松良典、田原園子（越智さや香委員は欠席）（敬称略）	
事務局	宇野教育長、市川教育部長、河合文化課長、井上課長補佐兼文化振興係長、新庄主事	
<p>1. 開会</p> <p>教育長：(挨拶)</p> <p>2. 会長 副会長あいさつ</p> <p>会 長：(挨拶)</p> <p>3. 報告事項、意見交換</p> <p>事務局：ありがとうございました。</p> <p style="padding-left: 40px;">それでは議事に入ります。ここからの進行につきましては、清水会長にお願いいたします。</p> <p>(1) 令和5年度事業実績報告について</p> <p>(事務局から説明)</p> <p>会 長：ありがとうございました。それでは、文化団体の個別の事業について、説明お願いしたいと思います。文化会館、文化協会、リリオコンサートホールの順番でお願いしたいと思います。</p> <p>栗林委員：文化会館 パティオ池鯉鮒からご報告いたします。</p> <p style="padding-left: 40px;">令和5年度の事業につきましては、全ての事業について実施することができました。ただし、夏休みの子どもを対象とした事業につきましては、まだまだPR不足・周知の徹底という点が弱く、集客について少し伸び悩んだところが問題点となっております。</p>		

います。

一般の事業につきましては、我々は1年間の中で「目玉になる事業」ということで、集客が図れる事業を予め2本の事業を行いました。

令和5年度の目玉公演は大きく2つありました。1つ目は「よみい PIANO CONCERT 2023」です。この方はピアニストで、YouTubeなどで非常に人気があります。最近ではテレビ出演もされてますが、まだ企画した段階ではそれほど知名度が高くありませんでした。しかし、一部のコアなファンの方もいらして、それによってどんどん広がり、チケットは即完売でした。内容も、非常に盛り上がったコンサートでした。

2つ目は、二兎社という永井愛さんが立ち上げてる劇団の作品で、「パートタイム一秋子」という公演です。演劇文化というものを長年パティオとしても進めており、令和6年度含めて二兎社の作品は3年連続で実施しています。こちらの公演も満席でした。

この2つの公演に関しては、我々も自信を持って提供し、なおかつ皆さんの反響も大変よいものでした。主立った報告は以上になります。

会 長 : ありがとうございます。文化協会お願いいたします。

近藤委員 : 文化協会は、美術部門・創作部門・茶華道部門・芸能部門の4部門を中心に活動しています。広報活動をしながら、たくさんの方に参加していただけるよう、参加者には記念品を差し上げるなどの工夫も行っていきます。

後継者育成事業として、学校と連携した出前講座や文化のつどいなど、子ども対象のワークショップを実施しましたが、まだスタートし始めたばかりですので、今後期待し、令和6年度は令和5年度よりもよくなることを考えて動きたいと思っています。

文化芸術活動は、その活動を通じて人の心を豊かにし、明日を生きる活力を与えてくれます。そして、知立における文化芸術活動の拠点は、パティオ・リリオ・文化協会の三位一体となって推進していると思います。

時代の流れとともに、新しい風を吹かせながら、人との繋がりを大事にしていきたいと考えております。令和5年度は、とにかくコロナがある程度収まり、活動が復活したところが大きく進んだ年でした。

会 長 : ありがとうございます。リリオコンサートホールお願いいたします。

三宅委員 : はじめに、資料2の入館者数と稼働率について、追加報告いたします。

延べ入館者数ですが、29,711人です。前年度からは約6,000人増えております。また稼働率について、ホール部分のみですが、59.8%です。こちらは、前年度比ほぼ横ばいでした。追加報告は以上です。

その他の資料についてご説明いたします。お配りした資料の中に挟み込んである、「2023年度の実施主催共催公演」ということで、こちらは、昨年度開催した公

演の一覧です。ほとんどが前年度からの継続公演でございますが、ミニコンサートという公演を毎月1回やっております。後は、夏の公演として「打楽器っておもしろい」と題したマリンバの公演。こちらは毎年名音大さんとタイアップしており、今年度も開催しました。

8月の公演「フィドルってなあに」についてですが、フィドルとは、北ヨーロッパの楽器で、いわゆるバイオリンというようなものです。そのフィドル奏者の方々をお呼びし、公演後には楽器を自由に弾けるコーナーも設け、子どもたちに好評でした。しかし、先ほどパティオさんもおっしゃってましたが、子ども向けの公演というのはなかなか難しく、人数としても残念ながらこちらの期待した人数には達しませんでした。この点については、今後も対策をしなければならないと思っています。その他、特筆すべきものとして、9月の「進藤実優ピアノリサイタル」があります。この時は、NHKBSのテレビ収録が入り、11月に放送もされました。こうした経験は初めてだったのですが、その他の公演でも、FM放送を行うなど、リリオコンサートホールでの演奏が全国に流れたということがありました。

ミニコンサートに関しては、昨年度から回数券の販売を始めました。6枚綴り2,500円で、常連の方を中心に好評でした。今年は6枚綴り2,700円ということで少し変更になりましたが、公演を観に来てくださるお客様の1/3ぐらいの方に利用していただいています。

団体の利用もあり、今後ミニコンサートについては、色々なジャンルを検討していると考えています。今年11月にはジャズの公演が予定されていますが、将来的には例えば合唱の公演など、月に一度の楽しみということで、定着していくことができればいいと考えております。以上です。

会 長 : ありがとうございます。それでは、これまでの説明について何かご質問はございますか。

川上委員 : リリオコンサートホールのミニコンサートについてです。
団体割引ということがチラシに記載されていますが、割引率はどのくらいなのでしょう。

三宅委員 : 10名様以上のご利用の場合、10%割引です。お客様から、団体利用をしたいという声があってはしまったものです。

川上委員 : 例えば、同窓会やPTAなどでしょうか。

三宅委員 : そうです。
リリオコンサートホールの隣がホテルですので、終わった後にホテルの食事に行かれるようなことも狙っています。

川上委員 : 知立市民に限らず利用できますか。

三宅委員： はい。市外の方も利用できます。

川上委員： リリオさんのミニコンサート以外の一般公演も含め、知立市民のご招待や、先行販売もありますけれども、私自身も何度も利用しています。一流の方や若手のリサイタルが身近に聞けるので、お友達も誘いやすいですし、すごくありがたいことだなと思って活用しています。これからは是非続けていただきたいと思います。

会 長： 団体利用は、どのくらいあるのでしょうか。

三宅委員： 残念ながら、先ほどの一例のみです。その時は20名くらいの利用でした。なかなか仕組みづくりが難しいです。今後は、例えば、ホテルとのタイアップなども含めて仕組みを作っていこうかと思っておりますが、まだ営業的にも今後の課題が多いです。

先ほど川上委員のご発言にありましたが、市民招待や先行販売について追加説明いたします。どちらも令和5年度から知立市経済課の補助金をもらってそれをもとに行っているものです。

先行販売は、市民の方が免許証などの証明となるものをお持ちいただければ、一般発売の1日前に買えるというものです。

市民招待は招待数が公演ごとに異なりますが、先行販売と同様に、市民の証明となるものをお持ちいただいた方に先着順で招待するものです。

今年度ももちろん継続しております。中には、毎公演来られる方もいらっしゃいます。住所を見ても、例えばホールに近い中町の方ももちろんですが、昭和からミニバスに乗って来られる方もいらっしゃいます。

このように、知立に住んでよかったなと思っていただけるような仕組みづくりに力を入れています。

会 長： ありがとうございます。その他に何かございますか。

永井委員： 今の招待枠のお話を聞いて、久々に思い出しました。私の子どもは障害があるのですが、学校へ通っていた時代に、名フィルのコンサートを招待枠でよく行かせていただいていた。まだパティオ池鯉鮒が無い時代で、パティオができてからの時もありましたが、知立市内での公演はなくて、刈谷市のホールに行っていました。当時は、障がい者の団体である育成会を通して「こうした無料チケットがありますよ」というふうに配られたり、また、学校の方から配られたりしていましたが、今はそういった制度は市にあるのでしょうか。

教育長： 今はほとんどありません。

永井委員： 先ほどのリリオさんの話を聞いてると、やはり無料となると、後援してくださる方

が必要ですよね。当時刈谷市さんは、障がい者に対する招待枠というのを刈谷市民だけではなくて、市外の私たちにも対象にしてくださって、そういう機会をいただいていたのだなということ思い出しました。

何が言いたいかと言いますと、知的障害のある人や身体障害、精神障害もそうですが、初めて訪れるホールへ行って芸術にふれるということが、とてもハードルが高い方も多くいらっしゃいます。チケットを購入してホールに入ったけれども、やはりその場にはいられなかった、というような場面を経験された方は本当にたくさんおられます。まず、チケットを買うという勇気まで行かないのです。贅沢な話かもしれませんが、招待枠ならとりあえず行ってみようかなというきっかけになります。

今、その招待枠というのは、他市からの情報も含めて、育成会にはそういう枠がほとんどないと思いました。他の方たちにはそのような情報は入っていますか。例えば、小さいお子さんは保育園を通じて招待していただけるなど、そういったことがあるのでしょうか。

といいますのも、お話を聞いていると、子どもさん向けの企画がとても難しいというのは、背景にはやはり、特に小学生くらいまでのお子さんは親御さんが一緒になければ参加しづらい。障がいをお持ちの方は大きくなっても家族絡みでしか参加できません。そのような面もあるのではないのでしょうか。

私たちの団体も今、色々な方法で宣伝をしようとしているところですが、ハードルの低いきっかけがもっと発信できるといいなと思っています。

来月、パティオさんでバリアフリー企画「手話フェス」が開催予定ですが、この公演には障がい者枠で先行販売があり、その情報を私も一生懸命流しました。そして、私も様子を見るために初日にチケットを買いに行ったところ、障がいのある方で、こういうチラシをもらったから初めてだけどチケットを買いに来た、という方がいらっしゃいました。障がいのある方と付き添いの方も含めて格安で参加できるということで、とてもハードルが低かったんだと思います。かなり高齢の方でしたが、初めての経験ということにとっても驚きました。そして同時に、その方の中で初めての経験ができてよかったなと思いました。どの年齢でも初めて経験することはありますが、障がいのある方も無い方もできるだけ多くできればいいですよ。そしてその経験は、なるべく早い時期にできるのが重要ではなかと私は考えます。

ですから、パティオさんやリリオさんも市もそういったことを理解していただくと嬉しいです。

会 長 : ありがとうございます。行政の方で、そうした障がいがある方や色々な方に対しての無料チケットのサポートはあるのでしょうか。

事務局 : 文化課としてはありません。他の課も含めて、基本的に市の企画は無料で、有料のものはほとんどありませんので、そういった枠はないと思います。

会 長 : パティオやリリオは運営の問題もありますので、無料チケットをたくさん出すとい

うことはあまりできないかもしれませんがいかがでしょうか。

栗林委員： バリアフリーが何かというと、ただ道を平にして入りやすくするのも一つですが、それだけではありませんよね。心のバリアフリーだとか色々ありますが、先ほど永井委員がおっしゃったように、チケットを買いやすくすることも大事だと思います。

例えば、3,000円のチケットを買うのに、介助者がいらっしやるとすると、その方は公演を観るのに6,000円かかることとなります。観たい作品がある、でもそれには介助者が必要だ。では、この介助者の方をご招待するのはどうだろうという仕組みを考えました。作品を観たい、チケットを買う意思のある方は3,000円必要だけれど、介助者の方はどうぞご招待しますのでぜひお越しくささいということなんです。

先ほどお話しにありました「手話フェス」という公演が10月にあるのですが、これはその仕組みを作る前に企画していましたので、もっとハードルが低いです。この公演はバリアフリーを中心としたイベントですので、そういった意味では他の公演とは少し異なるルールでやっています。

障がいのある方、それを取り巻く家族の環境など、どこに手を差し伸べるかとよいのかという問題について、我々のやれる範囲は限りがあります。やはり、ご招待というのはなかなか難しいですが、お客様アンケートなどを参考にしながら日々改善していくしかないと思っています。

もう1点、PR活動のことでお話しさせてください。

保育園児など、子ども向けの企画をPRするには、まずは親御さんたちに見ていただく必要があるということで、昨年からはFacebookとInstagramに力を入れています。FacebookもInstagramもビジネスですので、有料広告を出しませんかという通知が必ず来ます。今までは少し怖い部分があり手をつけられなかったのですが、職員たちとディスカッションする中で、気軽に使ってみてもいいのではないかと声もあり、有料広告を出すようになりました。

資料にもあります「0歳からのコンサート」という公演を大ホールで毎年行っているのですが、コロナ禍とは比較しづらいですが、今年度は確実に昨年度に比べて200人増えました。

FacebookとInstagramは連携していて、誰宛てに宣伝するというのが選択できます。この時は、碧海5市に住んでいる30代・40代の女性の方というかなり限定した広告を出しました。ここまで絞ると広告料もかなり安くなり、4,000円ほどでした。この時は少し実験的な感覚でやってみたのですが、そしたら前年度より200人増えました。ただ、お客様がその広告を見て来てくださったのかというところは分析できません。それでも、FacebookとInstagramのアクセス数は相当数ありました。今後もこうした経験を蓄積していこうと思います。

会長： ありがとうございます。お子さんに周知する方法でよいアイデアがあるといいですね。

野畑委員： 保育園では、チラシなどをいただけますと配布することができます。

永井委員： 私たちも、企画するものに対しての PR は、まだチラシを中心にしていますが、つい最近驚いたことがありました。

24時間テレビがスギ薬局福祉アリーナで行われる予定だったのですが、台風の影響で中止になりました。私たちのフォーラムの団体のひとつでもある、けやきがやっているメープルけやきのパンも出展する予定で、2日間にわたり大量のパンを焼くことになっていました。ただ、急遽中止になり、パンは直前のところで辞められたのでよかったのですが、大量の焼き菓子は既に作り終えた後でした。どうかと思っていた時に、けやきの職員が SNS で助けてください、買ってくださいと発信したらすごい反響があり、完売しました。

職員が個人的に発信しただけなのに、問い合わせが殺到して、やはりこれからは SNS の力がとても大切だと改めて実感するできごとでした。

公的な立場であるともやみにできないこともあるかもしれませんが、何かいいマニュアルを作っていたいただければ嬉しいです。

会 長： ありがとうございます。

文化会館やリリオコンサートホールでも、YouTuber のコンサートをやられたとのことですが、やはり絶大な影響がある人なのですね。

栗林委員： まだ本当にはしりの時にお声かけしたので、契約した時はどちらかというはまだ発展途上でした。それが、一気に YouTube で人気になり、テレビにも少し出るようになった時が、ちょうど公演が行われた時くらいでしたので、タイミングが合致し、大盛況でした。ただ、SNS の世界は浮き沈みもあると思いますので、難しいと思います。

会 長： 最近は、YouTube でクラシックの曲の解説などをするチャンネルなども増えましたね。

永井委員： テレビでみたという言葉が少なくなり、YouTube でみたと言う子どもが多くなったように感じます。

川上委員： 私も YouTube をやっていないのかとよく聞かれます。しかし、求められるスキルも高く、ハードルが高いです。1回投稿したら、継続していかなければなりませんし、時間と労力のことを考えると尻込みしてしまいます。

会 長： YouTuber の公演で、遠くから来る方はどのあたりから来るのでしょうか。

栗林委員： 全国色々なところからいらっしゃいました。名古屋駅からどうやって行ったらい

ですかというような問合せもありましたが、少しでも、知立市の知名度アップに繋がったと思っています。

三宅委員： **YouTuber** の公演としては、「みやけん **ONE MAN CONCERT** in 知立」の公演を今年も5月に行いました。今回で3回目になります。

やはりファンの方というのは全国各地にいらっしやいまして、今流行りの推し活と言うのでしょうか。色々なところから来られて、前日は名古屋を観光しながら前夜祭をして、公演が終わったら打ち上げもされているようです。もちろんファン同士で。完全にレジャーの1つというか、生きがいの1つですよ。そういうようなことを公演毎にやってらっしゃるようです。毎回約半分くらいはコアなファンが見えて、その方々で埋まるというかたちです。

ちなみに、もうチケットは完売ですが、今週も石井琢磨という **YouTuber** の公演があります。コロナの時に皆さん見始めて、あれよあれよと有名になった方なのですが、東京では2,000席のホールが数分であつという間に売れてしまうそうです。リリオでも発売日にファンの方からすごく電話がかかってくるのですがこのようなお客さんの購入熱は初めての経験でした。前日の夜も、隣のホテルに泊まってから買いに来るといような勢いの方も多く、本当は午前9時から発売でしたが、5時6時の段階でもう結構並んでいたの、結局前倒して7時半ころから発売しました。1番早く並んだ方は、関東から来られた方でした。友の会にもその時のためにたくさん入られましたが、住所を見ると残念ながらほとんど県外でした。

しかし、その方々がわざわざその知立市に集まってきて、その方たちの反応で知立市やホールの良さなどの **PR** にも繋がっておりますので、今後も継続していきたいと考えています。

ただ、ピアノ **YouTuber** の方というのはやはりクラシックとは違うので、ファン層も全く違います。みやけんの公演もそうですが、他のクラシックのファンの方は誰も買っていないと思います。同じピアノという楽器を使用しますが、客層は全く別です。石井さんも同じで、クラシックファンの方はほぼ石井さんを買っていません。面白いくらい分かれております。今後、この流れがどのようになるのか、非常に興味のあるところです。

会 長： ありがとうございます。その他にご発言されたい方はいらっしやいますか。

丹羽委員： 子どもたちには本物の良いものを聞かせてあげたい、見せてあげたいと日頃から思っています。パティオさんのご協力も得て、毎年音楽コンサートや劇団の方の劇を観せていただいたりして、子ども達がすごく充実した時間を過ごしていると感じます。こうした本物をたくさん見せてあげることが大切だと思いつつも、先ほどお話のあった、集客がある程度あるものや子どもたちが喜ぶのもジャンルというのは、少し偏りがあるのかと思うと、クラシック系のものをはじめ、様々なジャンルのものでも学校の方に来ていただけるとありがたいなと思っています。

岡松委員： 市民の構成といえば、知立市も高齢の方はたくさんいらっしゃいます。私も会社を定年退職するまで、クラシックコンサートなどの公演にはなかなか行くことはありませんでした。しかし、少し前にリリオさんのワンコインコンサートに参加したら非常によかったです。時間の融通が効きやすいシニア層に向かっても呼びかけや、問いかけがあると嬉しいです。今まで現役で働いていた時は、そういうことにさく時間がなかったけれど、退職して新しい趣味も持ちたいと考えている方も多いと思います。そういう方々に向かって呼びかけをすると良いのではないのでしょうか。

栗林委員： リリオさんも含めて、新しい方に見に来ていただきたいという想いは強く、開催される時間帯も工夫しています。現役世代の方が来れるような夜に開催する公演もあります。今月はお月見コンサートという公演がありますが、平日の19時からです。19時という時間設定が参加し易いのかどうかということは、まだまだ満足するところではないですが、やはりそういった新しい観客の方々をお迎えするためには、時間帯や曜日などいろんなことを工夫しなければならないと思います。そうした情報を発信していき、現役世代でも来ていただけるようなイベントも進めていきたいと思っています。今いただいたご意見は、すぐにやれないことはありませんので、前向きに検討していきたいと思っています。

学校の関係ですが、来ていただくのが子どもにとって難しいってことなのは承知しておりますので、アウトリーチ的に我々が出かけて、音楽系と演劇系の公演を順番に学校で行っています。昨年、私も一緒に手伝いに行った時、かなり難しい芝居でもみんな飽きもせずしっかりと最後まで観ていました。その姿を見て、私も感動してしまいましたが、やはりそれくらい一流の役者さんの芝居はすごいもので、今後も、本物を見ていただけるような機会を、こちらか出向いてやっていくことを続けていきたいと思っています。お受けする方もぜひ色々なアイデアをいただきたいと思っています。

その中のひとつ、アンケートについてです。今は紙ベースでやっていますが、これが何とか電子アンケートになるとものすごく労力が減るのですが、今学校で、二次元バーコードを利用する方法でのアンケートは可能でしょうか。

丹羽委員： 二次元バーコードやURLでも対応できます。子どもたちはタブレットを持っていますので、学校としても電子アンケートの方がありがたいです。

栗林委員： すぐにでも対応したいと思います。ありがとうございます。

会 長： 本日の成果ですね。
その他にご発言されたい方はいらっしゃいますか。

近藤委員： 文化協会も毎年文化講演会をやるのですが、集客について毎年苦慮しています。講演会の中身については文化協会はとてもいい方を選んでお願いしていますが、

せっかくお呼びしてもお客様が少ないと、申し訳ないと思います。
文化協会も高齢化にはなったものの、知立市の文化向上のために何かしら手を打たないといけないといけません。
今年の講演会は、愛知県出身で画家の斎藤吾朗さんという方が講演してくださいます。ルーヴル美術館でモナ・リザを日本人初の公認模写された方で、それくらい立派な方が来てくださるので、頑張って集客したいと思ってます。皆さん、ぜひご協力お願いします。

会 長 : ありがとうございます。

事務局に一つ確認です。時々、中央公民館という言葉が出てきますが、確認シートなどには入っていないのでしょうか。

事務局 : シート中「生涯学習スポーツ課」という課が中央公民館の所管課です。

会 長 : パティオやリリオも含めて、地域に根差した色々な文化芸術活動に取りくもうとされています。できれば、中央公民館の管轄の課も入ってもらって話をすると思います。いかがでしょうか。

事務局 : 公民館ですと社会教育関係になりますので、こちらの文化芸術関係から少しジャンルが変わってきますが、しかし、お互い参考になると思います。今後検討してまいります。

会 長 : よろしくお願いします。

副会長 : 私は知立市に関わって25年近くなりますが、皆さんの色々な活動の報告をお聞きしており、こうした場で力をあわせながらやっているようですね。

先ほど会長がおっしゃった公民館ですが、中央公民館には小さい図書室がありますね。私も用事がない時に行って、本を読みますが、小学生がいたり、おばあちゃんと一緒に来ている小さな子がいたり、本当にいい空間だと思います。社会教育施設とはいえ、文化芸術活動にも関係あると思っていただきたいです。

私からの意見ですが、皆さん色々な施設の管理や経営をやっているのです。どうしても人を集めるということに主眼がいくかもしれませんが、私はそうじゃなくてもよいのではないかと思います。長く、少しずつ集まるようなそういう場所の提供も必要あるのではないのでしょうか。憩いの場所、情報交換の場所があるような文化芸術の取組みがあってもいいかと思います。

もう1点、観光ボランティアガイドの方についてです。知立市は観光ボランティアについて担当しているのは経済課だと思いますが、これについて思うことがあります。例えば、富山県の高岡市というところでは、教育委員会が窓口になって、街の中の様々なものについて調査や研究内容についても案内していただけるというふ

うに聞いたことがあります。知立市は、商工観光係として経済効果の面も併せて市長部局である経済課が所管していると思いましたが、観光については教育委員会が主管になるべきではないかと疑問に思っています。

観光ボランティアの方たちは非常に優秀な人が多く、いろいろ考えて分かりやすく説明して資料を作られています。ボランティアの方とも話しましたが、経済課ばかりではなく文化課も含め他の課とも組んで継続していったらいいというのが要望だとおっしゃっていました。

事務局と丹羽委員から話があった百人一首大会ですけれども、学校も含めてやっていたのが、離れて1つの課でやっていったという時に、参加者が少なくなってしまうのでは、やはり今後に繋がらないと思いますし、そういうふうにならないようなことができるのが知立じゃないかと思えます。繋がりをもっと太くしていただければいいのかと思えます。

会 長 : 知立市はコンパクトな市ですから、色んなことがやりやすいのではないのでしょうか。ぜひ連携が密になるように考えていただければと思います。

1点気になっていることがあります。今、知立駅の周辺が整備されていますが、パティオやリリオも含めて、文化活動をやっているような情報もうまく扱ってもらえるようなところにしてもらえるといいですね。この地域の文化活動を色々と宣伝してもらうにためにも、ぜひ駅前の活用を考えてもらえるとありがたいと思えますが、そうした構想はあるのでしょうか。

事務局 : 駅前の開発ですが、申し訳ないですけれども、詳しいことはまだ検討段階なので申し上げることはできません。しかし、おっしゃる通り公共施設の1部を駅前周辺に入れていくような検討は進めております。文化課は図書館も管理しているので、例えば駅前図書館を作ることや、知立まつり関連のものを飾るなどして、観光センターと交流してもいいのではないかということで、提案をしている状況です。実現するかどうかということは、もう少し先になりそうです。

永井委員 : 先ほど会長が公民館の方もこの会議に呼んだほうがよいとおっしゃったみたいに、都市計画に関する方もここにいるべきだと今思いました。色々な会議に出させていただきますが、縦割りが多いのもっと横に繋がらないとまとまらないのだということ毎回思います。色々な課が少しずつ交わらないと解決できない問題が多いと思えますので、私自身も違う会議に行った際には、ここでの意見が私なりに繋げていけるようにしたいと思いました。

会 長 : ありがとうございます。常に色んな課から来てもらうというよりも、時々スポットで話題性があるところを話してもらうとか、そのようなところでお呼びするということもあるのかと思えます。ご検討をお願いします。

それでは次に、(2)計画の中間見直しにかかるアンケートについてです。事務局から説明をお願いします。

事務局 : (説明)

会 長 : このことについて何かご質問はありますか。

岡松委員 : ターゲットやパーセントとかは定めているのでしょうか。年齢構成や、男女比となど。

事務局 : 今までは、無作為抽出した特定の方にこちらから郵送していたものが、逆に今度は関心のある方が回答をしてくださるようになると予想されます。

岡松委員 : そうすると母数も変わってくる可能性があるわけですね。例えば、子どもでも回答できるということでしょうか。

事務局 : はい。

岡松委員 : 設問は同じでも、回答状況が変わってくるので、その辺りの解析はひと工夫いるのかもしれないですね。

会 長 : かなり変わってくる可能性がありますね。経費削減でなかなかできないと思いますが、調査会社を通じてWEBアンケートをやっているところも最近たくさんあるでしょう。業者に発注するのは難しいのでしょうか。

事務局 : 市として、中間見直しについて外注は行わない方針に変わってきています。

会 長 : 私たちが大学で研究をやる時は、調査会社に頼んで、年齢層の設定など色々な強さの枠組みを作ることができます。最近だとネットでお年寄りも回答してくれますので、若い人も含め均等に回答してくれます。

興味がある人だけの回答になると、興味のある人或いは文句を言いたい人のどちらかになってしまう可能性があり、中間のところは抜ける可能性があります。その辺り方もじっくり検討してみてください。

その他何かご意見のある方はいますか。無ければ、進行を事務局に戻します。

事務局 : (説明)

6. 閉会